NIE実践報告

1．タイトル：**かわいそうな子どもたち**

2．学校名

さいたま市立大東小学校

3．実践者名（代表者名）

上田不二子

4．学年

6**学年**

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語科　　31名

6．単元（本時の学習課題）名

自分の考えを明確にしよう

7．目標(狙い)

世界中の自分達と同じ年齢のかわいそうな子ども達の実態と原因について知り、伝え合い、発信する。

8．評価の視点

自分が調べた内容や記事に対する意見を友だちに分かりやすく伝えようとしているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「平和のとりでをきづく」　教科書教材：光村図書６時間
「かわいそうな子どもたち」について調べ、伝え合う　2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1,「平和のとりで」を読み終え（３）作者の意図について話し合う。
2,めあてをもって調べ学習を行う（２）
3、学んだことから自分が決意したことを発信する。（３）
留意点

- **「世界中に今もなお平和でない地域があり、多くの人がそれを知り、平和につながる行動を起こすことが必要である。」ということに気づかせる。**
- **調べ、互いに知らせあう学習活動を行う手段として新聞を活用させる。**
- **児童には家庭学習で新聞を利用したスクラップをしてノートをもちよりまた、友だちと協議して学校にある4誌からも関連記事を探させ、常に自主的に調べ学習を進めさせる。**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「平和のとりで」では、数十年前の原爆のことが取り上げられていたが,新聞から世界中に今も平和でない国や地域が限りなくあることを学んだ。また、今も苦しんでいる子どもたちが多くいることに気づ、これからは自分たちが世界の平和のためにどんなことをしていくべきか考える機会となった。

12．成果と課題

結果として、世界中で起こっている児童についての悲しい出来事(児童労働、少年兵、飢餓、地雷被害）について知ることが出来た。新聞記事の中から調べ、スクラップしたことに自身のコメントを加えて発表しあうことによって平和の大切さと,自分達がこれから何をすべきかを考えることができた。最後に学習した内容を「平和資料館」のホームページに「世界にとどけ平和の声」として投稿した。児童は、今まで本を通して知識を増やしたり必要な情報を取り出すことが多かったが、新聞を通して世界で今起こっていることを知ることができることに感動を覚えたようであった。また、戦場のカメラマンが話題になっていたので、意図的に渡部氏